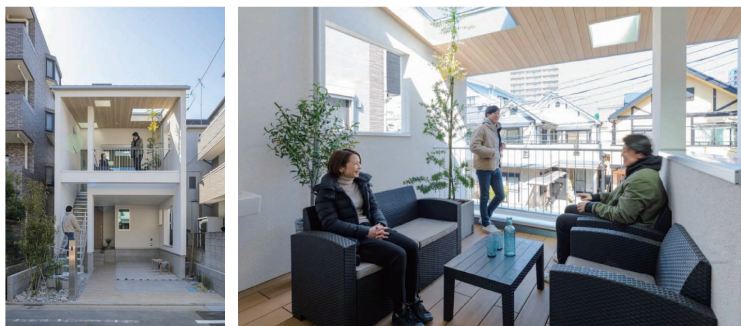


街とつながる 空中の縁側

受賞作品① 江戸川区

街とつながる空中の縁側



概要

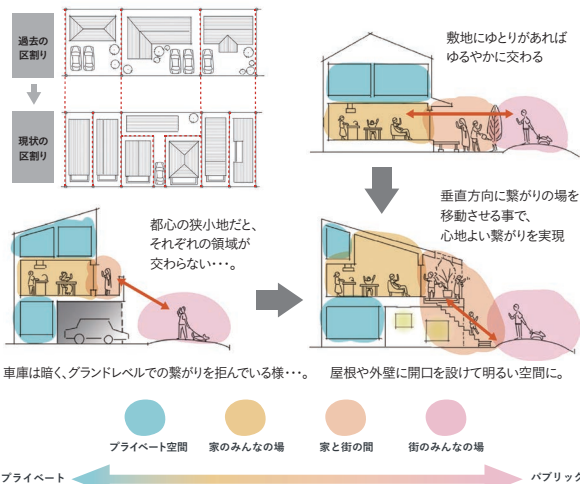
外部から直接アクセス可能なバルコニーのある戸建住宅です。道路に面したバルコニーが昔の日本の住宅における縁側のような役割を担います。道路面と程よい距離感を保ちつつも家の生活が街に漏れ出て、街と家の境界を曖昧にします。街とつながる事で、職住一体の生活など、バルコニー空間を活用したライフスタイルの幅が広がる住宅です。

課題への着眼点

都市部では、年々土地価格が上がり続けており、購入層の年収に見合う金額にするためには、敷地を小さく区割りする必要があります。その分、敷地のゆとりがなくなり、グランドレベルに庭など、街と家との間の余白がなくなっています。そこで、垂直方向に繋がる場を移動させることで、心地よい繋がりを実現させました。また明るく開放的な室内空間になるよう屋根や外壁に開口を設けました。

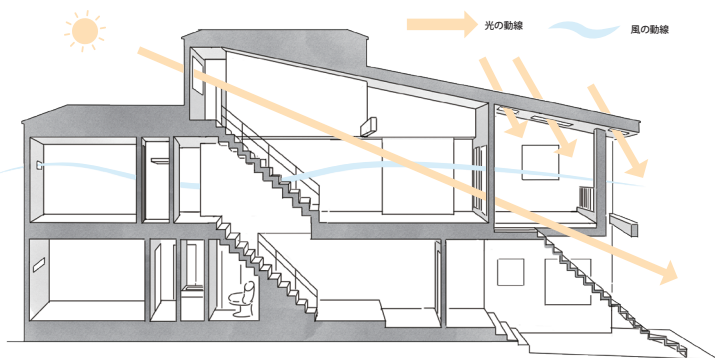
この家から広がる、街とのつながり。

道路に面した開放感ある2Fバルコニーは、人の生活を感じさせながらも、プライベートを保った新しい住宅構造。人々の生活が馴染んでいる街並みに、活気を与える住宅です。



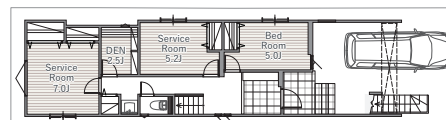
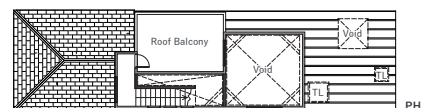
開放的な室内空間

室内は1Fから2Fまで空に抜ける計画となっています。狭小地でありながら、南側からの光や風をたっぷりと室内に取り入れることができます。



限られた敷地内で充実した生活空間

街とつながるバルコニー以外にも、限られた敷地の中で多くの工夫が施されています。1Fには3部屋と合わせてDENをご用意。2Fにはテレビボード裏に収納空間を設置しました。様々な使い方ができるルーフバルコニーも設けているので、生活の幅が広がります。



受賞作品②

川崎市宮前区

家族が繋がる アウトドアテラスのある暮らし



概要

リビングに面するテラスは大屋根や壁等の建物躯体に囲まれた中に設ける事により、屋外にありつつ半屋内のようなプライベート感を兼ね備えた空間となっております。玄関、リビング、2階バルコニーと立体的に家族とも緩やかに繋がることのできる空間です。

課題への着眼点

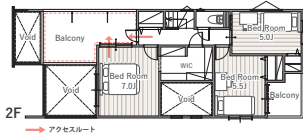
コロナ渦によるおうち時間の増加や、スマホで動画配信等を手軽に楽しめる時代となり、公園や屋外で外遊びを楽しむ機会が少なくなっている一方、室内で大勢で集うと密になってしまうという懸念もございます。そこで屋外でありながらも屋内にいるようなテラス空間を設け、さらには、テラス・リビング・バルコニー・お庭とそれぞれの居場所で集いながらも空間が緩やかにつながりコミュニケーションもとることができるような空間を計画いたしました。

上と下で繋がる 新しいライフスタイル

屋根や壁などの建物躯体に囲まれた中に設けられた1Fテラスと2Fバルコニーは上下を立体的に繋げる空間。家族の新しいコミュニケーションスタイルです。



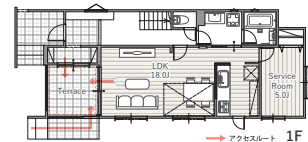
家族が繋がる2Fバルコニー



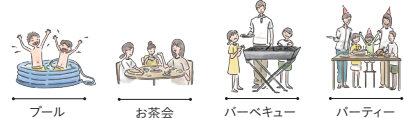
2Fのバルコニーは主寝室からアクセスできるプライベートな空間。2Fで仕事や趣味の時間を楽しみながら、1Fのテラスを眺めたり、話かけたりすることができます。半屋内でのコミュニケーションが生まれ、より多様なライフスタイルを実現できます。



街と繋がる1Fテラス



1Fのテラスは、玄関・リビング・外部からの3方向からアクセスできる空間となっており、友人や近所の方とのコミュニケーションの幅を広げられる場となっています。お子さまのプール遊びやバーベキュー、パーティーなどに最適な空間です。



余白から生まれる セカンドスペース



余白から生まれる
セカンドスペース

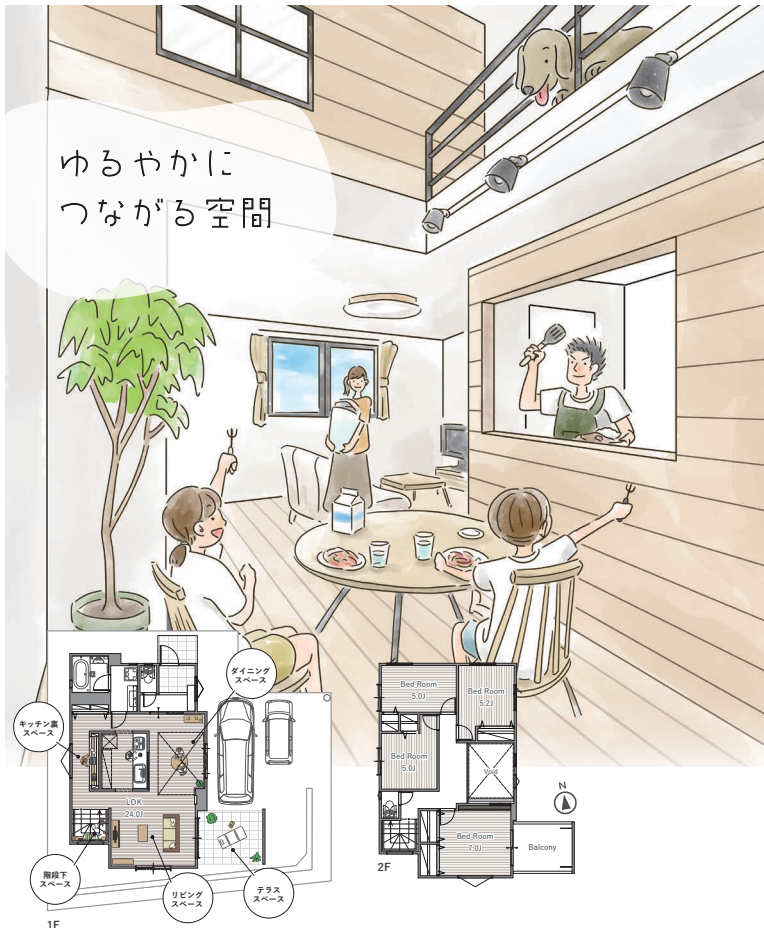


概要

リビング内の余白をセカンドリビングと見立て、それぞれの居場所を完全に隔てることなく、個の空間を保ちます。緩やかに家族と繋がることを叶える空間をもつ住宅を計画しました。

課題への着眼点

リモートワークが当たり前の時代になり、多くの家庭で、家の中で過ごす時間が増大しました。「おうち時間」では、同一空間に家族全員が長時間過ごす中で、閉塞感やプライバシーの確保されないストレスから、家族間でも個の時間・空間の必要性が高まっています。一方で、個を尊重し過ぎて家族の繋がりを断ち切ってしまう。そこで完全に個を隔てることなく個の空間を保ち、緩やかに家族と繋がれるような、セカンドスペースを提案いたします。



リビングの「余白」をセカンドスペースとして、それぞれが好きなことをして過ごしています。一緒にいながら個のスペースが保てる、ゆとりの空間になっています。

使い方いろいろライフスタイルパターン

family case 1 仲良し兄妹家族

3兄妹がいる家族はキッチン前の「余白」空間に3人揃って学習ができる長いカウンターを設置。キッチンで料理をしながら、子どもたちの様子を見れる配置に。テラス空間は子どもたちが元気よく動けるような遊び場として活用可能です。

family case 2 猫ちゃん大好き家族

「余白」スペースに猫ちゃんが喜ぶ空間をたくさん盛り込んでいます。リビングの壁際には、運動がたくさんできるキャットタワーなどを設置。階段下スペースは猫ちゃんのリラックススペースとして使うことも可能です。

family case 3 ガーデニング好き家族

ガーデニングが好きな家族はキッチン前にカウンターを設置し、大きな植栽を眺める空間に。それ以外の「余白」スペースにも植栽を散りばめ、いつでも好きな植物を眺めることのできる室内空間としています。